

プロファイル

卒業後、同大学文学部研究員を経て、本の執筆、テレビやラジオ番組の監修や出演、演劇などで幅広く活躍。最近の著書は「国解『これだけ!』日本史」(三笠書房)、「誰が、なぜ? 加来耕三のまさかの日本史」(さくら舎)など多数。武道(東草流17代宗家)を極め、ヨーロッパで教えていた経験も。1958年、大阪市生まれ。

◇みんなには、ぜひこの人に会いたいな、という人がいるでしょう。毎週のこのコーナーでは、毎小特派員のみなさんといっしょに取材します。あなたのあこ

がれの人、直接会って質問してみたい人の名前をはがきに書いて（あなたの名前、住所、電話番号、学年、性別もね、〒110-8051（住所はいりません）

毎日小学生新聞「待つてゐるね！ 每日申しこんでね。」

の先の展開まで考えた見事な武将ですが、嘆くこともあったんですね。

久は軍船を送らないんですね。当時の義弘の手紙が残っていて、「遅刻して周りに笑われた。武士の面事が丸つぶれだ」と書いてある。義弘は何事にも動じず、常に物事の先の展開まで考えた見事な武将ですが、嘆くこともあったんですね。

かくこうそう
加来耕三さん

歴史家

人物のつながりで歴史が見える

豊臣秀吉が九州を攻めましたね。
義弘の兄で、島津氏の十六代当主
・義久は降伏します。その後、秀
吉が家督を継がせたのは義弘。こ
れは秀吉がよくやる手で、こうし
て兄弟の仲を悪くさせるわけで

ることで、義弘の人となりが浮上^{あふ}することもある。人物の繩^{むす}つながりと横のつながりを調べ^{はなべ}けていると、歴史^{れきし}が見え^{見える}てくるんですね。歴史^{れきし}は調べれば調べるほど、理解^{りくわく}が深まるのです。

は珍しい人物です。藤季はどうぞけ追いつめられても、「かかの勝負をせず、第三の道を考えて生き残った。勇敢な武将はかっこい

歴史をくねり下げ、新しい史実や人物像を分かりやすく、おもしろく紹介してくれた歴史家の加来耕三さん。「歴史を学び、活用すること」をテーマに、350冊以上の本を執筆・監修し、テレビ出演や講演も人気です。歴史が好きで、加来さんの大ファンという毎小特派員の三橋尊君と、妹の円佳さんがお話を聞きました。

加賀でひん 尊毛に居たかがさきた
んだね。歴史上の人物では誰が好す
きなの？

(埼玉県長瀬町立長瀬第一小4年)
三橋円佳さん(同小3年)

子どもたちにおすすめの著書を教えてくれました。「加来耕三の感動する日本史」(ナツメ社、1365円)

尊君 好きなお城は？
かく くわん

ニュースを学んで賢くなろう!

10歳からのニュース学習誌

毎月15日発売

定価330円

年間
購読 3,960円

月刊 News がわかる

年間
購読 3960円

